

勝林寺報

「正信偈」のはなし



に説かれてることをもとにして。うたわれているのですが、そこに説かれていることがらは、ほんでもない「私の親」のこととしていたときたいと思います。

弱く生れついた私、愚ぐらしてきた私。悪業の子であつた私ゆえに、その子の真実の親となろうとした親の苦惱苦勞はいかばかりであつたか、ということを思いつつ、この部分を親鸞さまといつしょに、うたわしてもらいましよう。

煩惱の子であつた私ゆえに、その子の真実の親となろうとした親の苦惱苦勞はいかばかりであつたか、ということを思いつつ、この部分を親鸞さまといつしょに、うたわしてもらいましよう。

でこそ、「成就」(なしとげ) られるのです。
本願成就のそのみ名を
信することろひとつに
はとけのさとりひらくこと
願い成りたるしなり

いまにして思うのです。
この私を、こんなざらしの私ゆえにこそ一心

によんでくださつてあた。および声があつたので
す。私は、如來の、親心のサイクルに、からめと
られて、もつたないいのちに、生きかえらして
いたよき。この身のままで、いま、如來さまの

いのちに、生まれかわらしてもらつてあるのです。
わたしが、お救いにあずかることは、ほか
のが、救われてゆくお淨土とその道すじとを考え
ぬかれ選びとられた。それにはほとんと永遠に近
いほどの時間の思いめぐらしと修行の苦勞があつ
たのである。

その、なみなみでない思いめぐらしと苦勞のな

いのちに

た。

昭和57年(1982年)11月20日 土曜日

1人1回運動を展開

社会性ある活動めざして

兵庫・出石
仏婦連盟
難民らに必需品贈る

【兵庫】ベトナム難民、兵庫大水害の被災者に用品の生活用品を贈ること、兵庫教育庁は石川伝助婦人会連盟（始創于一九四八年）では、「ダナー（布施）運動の一環として、ことし七月から一人一品運動を展開してきたが、集まつた石けんやタオルなど約四千二百点が、去る八日、兵庫教育所（吉川栄蔵所長）に運ばれた。これらは同教務所を通じて配分されるが、同組伝助連盟では「今後も社会性ある日常生活をして、ダナー運動を推進していきたい」と話している。

A high-contrast, black-and-white photograph showing a person from behind, seated at a table. The person is wearing a dark jacket over a light-colored shirt. The background is a plain, light-colored wall.

1人1品運動で集められた生活用品を整理する仏婦会員=神戸別院で

などが行われてきたものの、組合としては財施が中心で、しかるに二月に集中しているだけに、社会性のある日程活動までにはいつにならなかった。

こうしたところ、ことし二月七・八の兩日に開かれた救急箱研究会、救急箱公募運動からべトナム難民収容施設である施設虐待促進センター慰問団体段段が披露された。この間に敵した姑射蓬原長らが、七月十四日に二百五十人が参加して開かれた同組合大会で、日本国内外で密されている難民に新品の日用品を贈ることを提案、大賛成が得られた。

この後、大水害が甚時地方をまたため、これら被災者に慰問することを決め、さうそくターナー選と今回の一人一品運動の趣旨をもとに

第八百四十一、タオル一千三百五十五枚
四、衣類一千五百五、風呂敷九十九枚
九、食器一九十七、シーツ・布団
カバー一七十六、なべ一十五、
キンリ一十五、毛布・布団・敷布
十三、その他の雜貨一九百五十七点。
この日早朝からトヨックに積み込み、
姑射斎頭長、西郷住職ほか、
大野塗王教区伝教巡説委員会、教
所職員らが神戸別院内効願所に
運び込んだ。

これらはベトナム難民や後輩
人ひとに教務所を通して広く配分
されることになっているが、その
うち運ぶのが困難なものなど一部
を、来たる二十四・二十五両日に
船頭で行われる教区伝教部研修会
会と二十七日から三日間當まれ
る別院の報恩講の際にチャリティ

みんなで「報恩講」

懇謝、共におかけて、今年もにぎやかにおつとめできました。小谷の婦人二人本堂裏の畠をきれいにして下さいました。出石や復見。坪口などから沢山のお花を供えていただきました。出合仏婦の人々で仏具のおみがきが出来ましたし仏社の亀井さんほかで立派な立華も出来ました。ことに宮島千秋さんのマイクロバスが全城から満堂のお参りを送迎下さいました。また、東京の玉井様に寄贈していたいた放送設備も威力を發揮しました。

その他、あれやこれや、今年も門徒「みんなでお待ちうけ」してつとまつた報恩講でした。

した手紙を全員に出し、また内全十四才守でも独自に空襲警報にて逐別の轍を抜けた。しかし、十月一日から始める予定にいたといふ、早くも八月中旬から金賃が自動的に上昇。月初には各種店舗を通じて、当初の手紙を大幅に上回る点数の日用品が豊林寺（西池坂後住区）に寄せられ、一部屋が埋めつぶされたほどといふ。

一ハザーを開き、配分先へ送り出している。
姑射金兵は、ダーナの日にこれまで通りに運動を展開しようとしながら「社会姫があり、からでできることとして、じつに活動を毎年行つていただきたい」といいますが、今後はどういうのが必要とされているのか聞きわめた上で、会員の方々を求めていきたいと思つてす」と語っていた。

二百。の水に、干しいたけ一つ
か二つと、根こんぶ一つを一晩つ
けて、その水を朝飲みました。
二百あつた血圧が二ヶ月で下がり
安定しました。

A子先生のこと

短大を出て、すぐに採用試験に合格。T市の小学校に勤めたA子さん。三年してすばらしい恋がみのつて結婚しました。妊娠中、勤務先の学校に風しんが流行していました。

おそるおそる産みましたが、やはり出産した男児は、耳と目と両方に障害がありました。

若い夫婦は必死に各地の病院をかけまわりましたが、とくに耳は絶望に近いということでした。

A子さんは年度がわりに勤めをやめてしましました。子供がもう生後八ヶ月になつていきましたから、保育所に入れたくて、自分もその保育所に保母として勤めたのです。

目や耳がだめでも、やつぱり子供社会の中で大きくなつたい。それには母である私もいつしよに苦労しなければと思つたからです。

この子のために、住まいの構造も変えました。くらし方全部変えました。

A子さん夫婦がいま考えていることは、ただただこの子の将来への願いと計画ばかりです。

A子さんを見ていると、これこそほんとの母親といふ氣がします。

耳がきこえない子なのにA子さんは、いつもいつもその子を抱いては名前をよび、名前をよんでは抱きしめているのです。

ある病院の先生がおつしやつたということです
「目が見えなくとも抱いておれば母親をわかつてくれます。聞こえなくとも、いつも呼びかけてあげなさい。必ず聞こえていきます。」

おちちをふくませながらA子さんは、呼びかけ話しかけています。

そんなとき赤ちゃんも、はつきりしないままさ
しながら、母親を見上げます。
そんなとき、二人は、どんな親子よりしあわせ
なようにみえるのです。

そんなとき赤ちゃんも、はつきりしないままさ
しながら、母親を見上げます。
そんなとき、一人は、どんな親子よりしあわせ
なようにみえるのです。